# 令和元年度事務事業評価シート（平成30年度実績）



## ◎基本情報

| 事務事業名 | 環境学習推進事業 | 担当部署 | 市民環境部　環境局　環境政策課 |
|---|---|---|---|
| 総合計画体系 | | 根拠法令計画など | 鳴門市リサイクルプラザ環境学習館条例、鳴門市リサイクルプラザ環境学習館条例施行規則、鳴門市環境基本計画、なると環境プラン推進計画2012 |
| 基本政策(大項目) | 3 しっかり安心・快適住み良いまちづくり | | |
| 政策(中項目) | 2 快適に暮らせるまち　なると | 事業期間 開始 | 平成 20 年度 |
| (小項目) | ごみ処理 | | |
| 施策 | 6 自然と共生できる循環型社会づくりの推進 | 事業期間 終期 | 未定 |
| 基本事業 | 2 クリーンセンターの運営及びごみ対策 | | |

## ◎事業概要（PLAN）

| | | |
|---|---|---|
| 事業対象 | 誰(何)を対象にしているか | ☑ 個人　☑ 世帯　☑ 団体　☐ その他　☐ 内部管理<br>市民 |
| 事業目標 | 対象をどのような状態にしたい(目指す)のか | ごみの減量やリサイクルを推進し、自然と共生できる循環型社会づくりのため、本市の環境基本計画では、環境学習館を環境学習・環境教育の拠点として位置づけており、施設内の見学や講座等を通して、環境問題への意識の高揚を図る。 |
| 事業計画 | 30年度に何を計画していたか | 環境学習館で育てたゴーヤ苗を希望者に無料配布するとともに、温暖化防止等環境問題への関心や理解を深めてもらうための啓発活動の一環として「緑のカーテンコンテスト」を開催する。<br>環境問題をテーマにした講座や施設内の見学を実施し、市民への環境問題に対する意識啓発に努めるとともに、人気の高いイベントである親子天体観測会を開催する。<br>市民が気軽に自然と触れ合える場として、「フクロウと子どもたちの森」の環境づくりに努める。 |

| 成果目標 | 指標名 | 29年度 | 30年度 | 元年度 | 2年度 | 3年度 | 単位 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 事業目標の達成度合 | 環境学習館利用者数 | 8,300 | 8,300 | 8,300 | 8,300 | 8,300 | 人 |

## ◎実施結果（DO）

| | | |
|---|---|---|
| 事業実施内容 | 30年度は目標を達成するため、手段としてどのような活動を行っているのか | 環境学習館の活用を推進するため、絵手紙教室やエコクッキング等、環境学習講座や、施設内の見学を開催し更に、小学校の課外授業として、施設内の見学時に牛乳パックをリサイクルして絵手紙を作る紙漉き体験をしてもらうなど、環境問題についての啓発活動に努めた。また、親子天体観測会について、今回は環境学習館特別企画と位置づけ2回に分けて実施したところ、合計100名を越える市民に参加していただくなどやはり人気の高いイベントである。今後も継続して講座等を行い、多くの市民に当センターを訪れていただくことで、環境問題に関する意識啓発を行いたいと考えている。 |
| 事業実施手法 | | ☑ 市実施　☐ 一部委託　☐ 委託　☐ 補助金　☐ その他 |

| | | 指標名 | 29年度実績 | 30年度実績 | 元年度目標 | 2年度目標 | 3年度目標 | 単位 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 活動指標 実施した事業の活動量を示す指標 | 1 | クリーンセンター視察数 | 13 | 12 | 40 | 40 | 40 | 件 |
| | 2 | イベント・講座実施数 | 30 | 26 | 35 | 35 | 35 | 件 |
| 成果指標 対象にどのような効果があったか示す指標 | | 環境学習館利用者数 | 7,134 | 7,147 | ― | ― | ― | 人 |
| | | 目標達成率(実績/目標) | | 86.1 | ― | ― | ― | % |

| 今年度の進捗状況 | ほぼ計画どおり | 事業全体の進捗状況 | 計画どおり |
|---|---|---|---|

（千円）

| 財源内訳 | 年度 | 区分 | 国 | 県 | 地方債 | その他特定財源 | 一般財源 | 事業費計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 平成30年度 | 当初予算額 | 0 | 0 | 0 | 10 | 328 | 338 |
| | | 補正予算額 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | | 繰越予算額 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | | 全体予算額 | 0 | 0 | 0 | 10 | 328 | 338 |
| | | 決算額 | 0 | 0 | 0 | 3 | 277 | 280 |
| | | 繰越額 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

| 人件費 | 正規職員(7,321千円/人) | 臨時職員(2,125千円/人) | 総人件費 | 総事業費 |
|---|---|---|---|---|
| | 0.0 | 1.5 | 3,188 | 3,468 |

【事務事業名：環境学習推進事業】

| 事業費推移 | 年　度 | 29年度決算 | 30年度決算 | 元年度 | 2年度 | 3年度 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 事業費 | 265 | 280 | 288 | 288 | 288 |
| | うち一般財源 | 261 | 277 | 278 | 278 | 278 |
| | 人件費 | 3,738 | 3,188 | 3,188 | 3,188 | 3,188 |
| | 総事業費 | 4,003 | 3,468 | 3,476 | 3,476 | 3,476 |

◎項目別評価（CHECK）

| 評価項目 | | 評価値 | | 所見欄 |
|---|---|---|---|---|
| ①活動に対する評価 | 有効性 | B:概ね有効性があった | | 緑のカーテンコンテストの開催や各種講座の実施等による啓発に努めた。 |
| | 効率性 | B:概ね効率的だった | | 講座内容等を精査することで効率的な運営が行えた。 |
| ②成果に対する評価 | 指標名 | 環境学習館利用者数 | | 全利用者数について、昨年度に比べ微増し、講座1回実施当たりの参加者数においても同程度となっていることから、概ね目標を達成したと判断する。 |
| | 目標 | 8,300 | 人 | |
| | 実績 | 7,147 | 人 | |
| | 評価 | B:概ね目標を達成できた | | |
| ③総合的な評価 | | B | | 各講座や緑のカーテンコンテスト開催等による啓発活動に努めることで、全利用者数は微増し、市民の環境問題に対する意識向上を図ることができた。 |

◎今後の方向性(ACTION)

| 課題 | 環境学習館は、現在専属嘱託職員１名が主体となって運営していることから、イベントや講座数を増やしていくことは難しい。<br>人気が高い事業の継続・拡大ならびに利用率の低いイベントの見直しなど、随時事業の効率性を考慮しつつ利用者数増加の方策を検討することが課題となる。 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 今後の方向性 | 1.廃止 | 2.要改善 | 3.現状維持 | 4.拡充 | 3 |
| ↓今後の方向性を踏まえた上で、以下の欄に記入してください。 | | | | | |
| 実施内容 | R1年度 | 前年度事業の精査と新規取り組み等について検討する。 | | | |
| | R2年度 | 前年度事業の精査と新規取り組み等について検討する。 | | | |